

## 《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》教授 / 鈴木 一郎      准教授 / 堀内 正隆      講師 / 鈴木 喜一  
 准教授 / 近藤 朋子      准教授 / 新岡 丈治      講師 / 西出 真也  
 教授 / 長谷川 敦司      講師 / 原田 潤平      講師 / 中野 諭人

## 【概要】

実験を実際に自ら行い、体験することを通して、自然科学系の学問をより深く理解することを目指す科目である。化学系、生物系、物理系の実験を通して、自然科学的なものの見方、考え方を身に付けるとともに、さまざまな実験の基本操作、実験実施上のマナー、実験結果の取り扱い方、実験報告のまとめ方などの基本的事項の修得を図る。

## 【学習目標】

化学物質の取り扱い、実験操作上の留意点、実験実施上のマナーなどを理解する。  
 化合物やイオン相互の反応に関する正確な知識、定量的な関係、化学の統計的な組立てや法則性を理解する。  
 操作の理由、化学反応の機構および各テーマの理論的背景を考察する。  
 顕微鏡の使い方を覚える。  
 顕微鏡で観察したさまざまな細胞などの形態を記憶するとともに、それらの諸特性を理解する。  
 動物の解剖の仕方を覚えるとともに、諸臓器・器官の形態的・生理的特徴を知る。  
 遺伝子解析を理解し、実験操作を体得する。  
 物理量の測定に慣れる。特に、副尺の原理について説明する。  
 測定における誤差の影響について説明する。  
 数値の取り扱い方を説明する。

## 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	全体のガイダンス 化学系実験のガイダンス	自然科学実習の趣旨および内容、日程等の説明。 テキストとプリントにより、次の内容を通じて化学実験に臨む態度を修得する。 1. 実験スケジュール 2. 化学実験の意義 3. 実験に臨む態度 4. 実験上の一般的注意 5. 事故防止上の注意 6. 化学実験ノート（レポート）の書き方	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
2	実験：基本操作	実験を行うための次の基本操作について説明できる。 1. 器具の取り扱い 2. 試薬の取り扱い 3. 質量および体積の計量 4. 指定された濃度の水溶液の調製	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
3	（課題演習） 基本操作	基本操作に関して実験ノートをまとめ、演習問題を解く。	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
4	（補充実習） 基本操作	欠席および再実験と判定されたものに基本操作の補充実験を行う。	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
5	酸と塩基（電離度、pKaの算出）	酢酸水溶液、塩酸のpH値を測定し、その値から電離定数と酸解離定数を算出できる。	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
6	(課題演習) 酸と塩基(電離度, pKaの算出)	実験ノートおよびpH値測定値に関するグラフの作成を行う。 理論的な塩酸のpH値の計算を行う。 実測値と理論値の違いに関する考察を実験ノートに記述する。 酸と塩基に関する演習問題を解く。	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
7	(補充実習) 酸と塩基(電離度, pKaの算出)	欠席および再実験と判定されたものに酸と塩基の補充実験を行う	A組 B組 鈴木 一郎 堀内 正隆 鈴木 喜一
8	生物系実習のガイダンス	次の内容を通じて生物実験に臨む態度を修得する。 ・実験スケジュール ・実験に臨む態度 ・実験上の一般的注意 ・課題演習への取り組み方 ・レポートの書き方	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
9	顕微鏡使用法 1. 各部の名称 2. 焦点の合せ方 3. 視野の大きさの把握 4. マイクロメーターの使い方 5. 顕微鏡像の例示	顕微鏡観察の基礎的方法を身につけることができる。 スケールの 観察物へ焦点を合わせることができる。 1mm × 1mmの方眼紙の観察・スケッチを通じて、いろいろな倍率の時の視野の大きさを把握できる。 対物マイクロメーターを基準として、接眼マイクロメーターの1メモリが各倍率の時に何μmに相当するかを求めることができる。 観察物の大きさを接眼マイクロメーターを用いて測定できる。  意味、スケールの入れ方を説明できる。 顕微鏡観察物を正確にスケッチすることができる。 植物細胞の形を説明できる。	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
10	(課題演習) 顕微鏡使用法	顕微鏡使用法に関してまとめ、演習問題を解く	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
11	(補充実習) 顕微鏡使用法	欠席および再実験と判定されたものに補充実験を行う。	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
12	細胞の観察 1. タマネギ表皮細	顕微鏡観察の基礎的方法を身につけることができる。 スケールの意味、スケールの入れ方を説明できる。 顕微鏡観察物を正確にスケッチすることができる。 植物細胞の形を説明できる。	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
13	(課題演習) 細胞の観察	顕微鏡使用法に関してまとめ、演習問題を解く	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
14	(補充実習) 細胞の観察	欠席および再実験と判定されたものに補充実験を行う。	A組 B組 近藤 朋子 新岡 丈治 西出 真也
15	物理系実験のガイダンスおよび	物理系実験のガイダンスを行う。	A組 B組

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	基礎測定 1. 副尺の原理の説明 2. ノギスによる円管の外径と内径の測定 3. 電卓の使い方	測定の基本となる長さと電気的な測定を行い、測定値の処理の仕方および測定方法について説明できる。 実験結果を処理するために必要な関数電卓の使い方を理解する。	長谷川 敦司 中野 諭人 原田 潤平
16	(課題作成) ノギスを用いた計測 関数電卓の使い方	ノギスの計測法・関数電卓の使い方に関してまとめる	A組 B組 長谷川 敦司 中野 諭人 原田 潤平
17	(1) 単振り子 物理系テーマ別実験	装置：単振り子ほか 単振り子の周期を測定して、重力加速度を求める。 (オンラインにて実施)	A組 B組 長谷川 敦司 中野 諭人 原田 潤平
18	(課題) 単振り子の実験のレポート作成・提出	単振り子の実験方法・結果をまとめ、考察してレポートを作成する。	A組 B組 長谷川 敦司 中野 諭人 原田 潤平
19	(2) 液体の密度 (3) ヤング率 (4) 表面張力 (5) 音波の波長と振動数 (6) 交流の周波数 (9) コンデンサーの過渡現象 (12) 固体の比重	装置：ヘアーの装置ほか 5%、10%、15%の食塩水の密度を求める。 装置：ユースの装置、ダイヤルゲージほか 金属棒のヤング率(伸びの弾性定数)を求める(鉄、銅、真鍮のうち一本を選ぶ)。 装置：デュヌイ表面張力試験器ほか 金属円環を溶液に浸して鉛直上方に引き上げるときの力を測定することによって表面張力を知る。 装置：パソコン、マイク、音叉ほか 音叉や人間の声など様々な音源が出す音波の波形を観察し、波長や基本振動数を求めてみる。 装置：モノコードほか 弦(細い導線)に商用交流を流し、磁石を近づけて弦に定常波を発生させる。そのときの波長を測定して、交流の周波数を求める。 コンデンサー、オシロスコープ、発振器ほか コンデンサーの充電・放電の過渡現象をオシロスコープで観測し、コンデンサーの電気容量を決定する。 装置：電子はかり式比重計 電子はかり式比重計の操作方法を知り、試料(銅板ほか)の比重を求める。	A組 B組 長谷川 敦司 中野 諭人 原田 潤平
20	(課題) テーマ別実験のレポート作成	テーマ実験方法・結果をまとめ、考察してレポートを作成する。	
21	補充実習	欠席および再実験と判定されたものに補充実験を行う。	

#### 【評価方法】

化学系実験は実験ノートの記載内容およびレポートにより評価する(100%)。

生物学系実験は課題提出により評価する(100%)。

物理学系実験は実験ノートの記載内容およびレポートにより評価する(100%)。

最終的な評価は「化学実験」、「生物実験」、「物理実験」の各評価点の平均点(100%)で評価する。

なお、全テーマの実験を行うことを原則とする。実施していない、又はレポートが未提出の実験テーマがある場合には履修を認めない。

#### 【備考】

教科書：「物理学実験」(各実験テーマ毎のプリント)

「自然科学実験・実習(物理学系)」 小野・橋本・渡辺・長谷川・中野・原田 共著

「自然科学実習(生物系)プリント」

「自然科学基礎実験(化学編)」 三共出版

参考書 : 「基礎物理学実験」培風館  
「医学歯学のための物理実験」集文社  
「教養生物学実験」共立出版  
「実験を安全に行うために」化学同人

**【学習の準備】**

予習として、実験実施ごと、教科書、資料を事前に読む。(80分)

復習として、前回実験内容を再確認し、疑問点などがあればまとめる。(80分)

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な基礎知識を自然科学実験の観点から修得する(専門的実践能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基礎能力を自然科学実験の観点から身につける(自己研鑽力)。